

安来市 I C T 整備に伴う授業改善について

1. 活用状況について

市内 6 校の小学校が 3 台の Pepper を前期、後期に分けて活用した取組を行っている。

- ・前期：荒島小学校、赤屋小学校、宇賀荘小学校
- ・後期：飯梨小学校、井尻小学校、赤江小学校

前期に活用した小学校の取組は以下のとおりである。

2. 小学校における Pepper の活用事例について（前期）

(1) 荒島小学校

1～2 年生は「学活」で、3～6 年生は「総合的な学習の時間」でプログラミング学習をしている。

1～2 年生は、自分が考えた言葉や動きなどを「ロボブロックスアプリ」を活用して入力し、Pepper を思い通りに動かすことができた。

3～6 年生は、発達段階に応じて Chrombook を使って自分の自己紹介をプログラミングし、そのプログラムに従って Pepper がそれぞれの自己紹介をする学習を行った。

また、特別支援学級では、国語のローマ字学習として 1 名の児童がドロップニュースを作成し、職員室前で他の児童が自由に見ている。

(2) 赤屋小学校

児童の動線を考えた 1 階昇降口廊下付近に設置することで、日常的に児童が Pepper とふれ合い、会話を楽しめるようにしている。また、「あいさつ運動アプリ」を活用し、毎

朝 Pepper が昇降口で児童を迎えると共に、設定した時間に児童と Pepper が朝の挨拶を交わせるようにした。

特別支援学級児童が、毎朝、「ラジオ体操アプリ」を活用して、Pepper や教職員と一緒にラジオ体操を行った。他にも、児童が、ALT と一緒に「英会話アプリ」や「サイモンズセイアプリ」等を活用し、Pepper と英会話に親しんだ。

また、児童が、休憩時間等に「ロボドリルアプリ」を活用し、楽しみながら学習を行った。

「お楽しみクラブ」では、児童がプログラミングを行い、Pepper を思うように動かしたり、話ができるようにしたりした。

さらに「イベント案内アプリ」を活用し、Pepper の動きや音声、画面表示を通して、来客や保護者に該当する会場案内をした。

(3) 宇賀荘小学校

「ラジオ体操アプリ」を活用して子どもたちとラジオ体操をした。

1. 2年生は「英会話アプリ」を活用して英語に親しんだ。また「写真アプリ」や「ロボドリルアプリ」を活用して楽しみながら学習できた。

1～2年生は「学活」で、3～6年生は「総合的な学習の時間」でプログラミング学習を行った。

知的障がい学級の児童は、上記のアプリを活用して、自ら操作して体を動かしたり、学習したりする等主体的な姿が増えた。

自閉症・情緒障がい学級は「ロボブロックスアプリ」を活用して、プログラムを試行錯誤しながら、あいさつや自己紹介したりするプログラムを完成させた。取組に向かう姿勢はすばらしく、児童の持っている力を引き出す機会になった。

情報科学高校との協働による人型ロボット「Pepper」の活用について

1. 事業概要

情報科学高校の生徒（部活動：情報科学部3名）に開発をしてもらったプログラムを搭載した「Pepper」を、IT City Yasugiのシンボルとして、安来庁舎1階の総合案内に設置し、来場者の目的別にフロア案内を行う。

2. 目的・効果

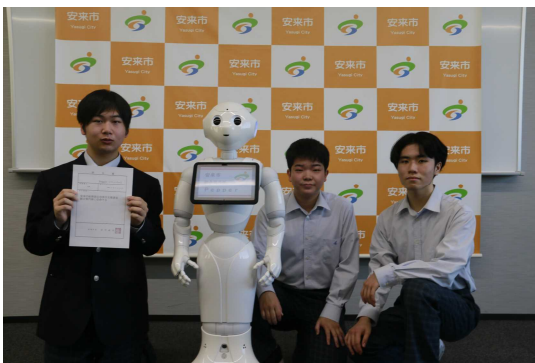
少子高齢化・人口減少により労働人口も減少している中、IoTやAIといった先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、経済発展と社会的課題を解決していく社会のあり方が目指されている。このような社会の実現にはデジタル人材が不可欠であり、本事業では将来社会で必要とされる人材を育成することを目的としている。

情報科学高校と協働することで教育貢献ができる。具体的にはアウトプット力を高めると同時に、クリティカルシンキング（批判的思考力）や協働の意欲を育むことができる。一方、情報科学高校としても知識の習熟度を高めるとともに、社会実装を通じて地元への社会貢献が可能である。また、プログラムは年々更新され、卒業生の年輪として残すことができる。

3. 状況報告

- 4月末 Pepper 納品
- 5月24日 Pepper 着任式（生徒が作成したプログラムにより挨拶）
- 5月～10月 プログラム開発
- 10月末 Pepper 総合案内設置

※その他にも議会や市民向けセミナーにて会場案内役として稼働



※5月24日の着任式の様子